
超者ライディーンStrikerS

ジャン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超者ライディーンStrikers

【Nコード】

N0984Q

【作者名】

ジャン

【あらすじ】

・・・孤独を共有する少年少女・・・
・・・戦いを選んだ少女の前に現れたのは・・・
・・・鋼鉄の翼を持った天使だった・・・

第一話 翼の戦士立つ

訓練校にて魔導師の卵達が日々訓練をしていた。

だが魔導師だけが局に勤められるのではない。中には優秀な補助魔導師やデスクワークを中心にする魔力のない者もいる。

「・・・・・・・・・・」

この少年・御崎陽介もその一人だった。

「・・・・・・・・ですから」

講義を聞いている陽介はここ最近不思議な夢を見るのだった。

第一話 翼の戦士立つ

（・・・・・・・・掴み取れ・・・・・・・・）

（・・・・・・・・誰だ？）

陽介は夢の中に居た。

何もない空間

そして目の前に舞い降り3本足の鳥。

「誰だ！」

3本足の鳥が人の姿をし始めた。

「な！」

陽介は驚いているその姿は

鋼鉄の翼を持った天使だった

「御崎！」

「いで！」

教師にたたき起こされる陽介だった。

昼休み

「はあゝ」

陽介は昼食がてらパンやらサンドイッチを食べていると・・・

「陽介！」

「痛！」

ハリセンで叩きつける少女ティアナ・ランスター。

「ん？ティアナ？」

「あんたまた居眠りしてたでしょ！事務課だからって手を抜くな！
！」

「へいへい」

陽介にとってティアナとは古い友人である。幼い頃に天涯孤独になったティアナと知り合い同じく天涯孤独となった陽介も馬が合いよく逢うようになった。

「全く！」

「すみません」

陽介はティアナのことをお節介な姉のように思っておりティアナ自身も陽介を世話のかかる弟のように見ている。

「はあゝ正直あんたが羨ましいわ・・・」

「え？」

ティアナの言葉が分からない陽介。

陽介にしてみれば魔力も何もない凡人の自分にしてみればティアナは魔力もあり学力も優秀であった。陽介の方がティアナのことが羨ましかった。

「どついう事だよ？俺なんか貧乏学生だぜ？訓練校に入ったのだから奨学金目当てだし」

「そつだよねゝいい！忘れて」

と言つて手をヒラヒラさせるティアナ。

「あ！そつだ」

ティアナがチケットを取り出した。

「今度のコンサート。ちゃんと付き合いなさいよ」

「何で俺が？友達いないの？」

「キャンセルされたの！でなきゃあんたなんて誘わないわよ！」

と激怒される陽介。

「はあ」

ティアナと別れまた一人になった陽介。

（ティアナにあの夢のことはなせばよかったかな？）

と陽介は夢のことを考えていた。

（あの黒い翼の戦士は俺に何か話しかけてきた。なんなんだ？超魔
つて）

黒い戦士の言葉

超魔を倒せ

陽介にしてみれば魔法世界であるミッドチルダ。その世界にいる者は魔法が使える。だが魔法が使えない陽介は異端の存在と言える。

（とにかくにも準備しないとな）

と思いながら陽介は自宅に戻り準備を始めるのだった。

準備が整いコンサート会場に着くと・・・

「遅い！」

「へいへい」

ティアナが待ちくたびれていた。

「これとこれ」

購買でジュースやらライトやら買って席に着く陽介とティアナ。

そしてコンサートが始まり会場は熱狂した。

「ティアナ。今日の友達どうしたのよ」

「ん？お節介な友達だけど」

「ふゝん友達ね」

「なによ」

「いや。ティアナに友達が出来たんだな〜って」

陽介の表情にムツとするティアナ。

コンサートも中盤に差し掛かったその時。

「！！！」

陽介が何かの気配を感じ取った。

「ん？陽介どうしたの？」

「ティアナ？」

陽介以外は何事もないかのように振舞っている。

その時だった。

巨大な怪物が現れコンサートのスタッフ達に襲い掛かった。

「・・・なんだ・・・あいつ？」

「え？どうしたの？」

陽介が見ている怪物の姿をティアナは何も無いかのように見ている。

「ティアナ・・・見えないのか？あいつが！」

「だからなんなのよ？」

怪物はスタッフに襲い掛かると今度はバンドマン達に襲い掛かった。

吹き飛ばされるバンドマン達。

しかし観客達は演出だと思い込んでいる。

そして一人が空中に放り投げられた。

「くそ!!」

「なにこれ!？」

ティアナも異変に気づいた。突然天井に風穴が開いた。

怪物が上昇したからだ。

「なんだよこれ!？」

陽介はあとを追った。ティアナも異変に気づき陽介のあとを追った。

屋上に出ると怪物と対峙した陽介。

「お前何者だ!？」

「ほう・・・俺の姿が見えるのか?・・・貴様・・・ライディーンか?」

「なに!？」

怪物の言葉が陽介は分からない。

「陽介!」

「ティアナ!」

怪物はティアナの姿を見るとティアナに襲い掛かった。

「え?」

ティアナは突然自分に来た衝撃に混乱している。怪物はティアナを掴み取るとそのまま屋上から投げ飛ばした。

「ティアナああああ!!」

「きゃああああ!!」

目の前の怪物に突き落とされるティアナ。怪物はそのまま陽介に襲い掛かった。

「く!!うああああああああ!!」

ティアナともども真つ逆さまに落ちてしまう陽介。

（・・・ティアナ・・・く!）

陽介が死を覚悟したその時。

・・・掴み取れ・・・

（え?）

陽介の夢に出てきた黒い鋼鉄の翼を持った戦士の声が響いた。

・・・お前に・・・

（誰だ!?）

・・・翼を与えよう・・・

ティアナはふと自分が宙に浮いていることに気づいた。そのまま誰かに優しく寝かされた。

「・・・・・・・・・・」

ティアナの目にははつきり映っていた。

（・・・・あれは・・・・黒い・・・・天使・・・・）

それだけ言つとティアナは意識を手放した。

「てあああああああああ！！」

「ぬあああああああああ！！」

怪物と陽介は組み合いながら飛行した。

（・・・・何故だ・・・・闘い方がわかる・・・・）

陽介はイメージの通りに力を引き出した。

「レイヴン！インパルス！！」

「うおおおおおおお！！」

怪物に向かって衝撃波が放たれ吹き飛ばされた。

「レイヴン！ディバイダー！！」

陽介の左腕に巨大な盾が現れた。

「小烏丸!!」

陽介は盾から刀を引き抜きそのまま魔物に突撃した。

「てああああああああ!!」

「ぬおおおおおおおお!!」

一刀両断される怪物はそのまま消滅した。

戦いが終わり静かな夜になった。

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

陽介はビルの屋上に着陸し一糸纏わぬ元の姿に戻った。

「・・・・どうなっちまったんだ・・・俺は？」

突如ライディーンに覚醒してしまった事に陽介は戸惑うのだった。

第一話 翼の戦士立つ（後書き）

オーガンはしばらく出ません。

第二話 ゴッドバード

数カ月後

「えっとこれとこれ」

時空管理局経理課に就職した陽介。伝票整理やらとにかく事務仕事が多かった。

「ええつとこの後は・・・」

とりあえずこの後の予定を確かめる陽介。

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

そんな陽介を見つめる一人の女性の姿が。

第二話 ゴッドバード

「ふっ」

とりあえず洋食屋で昼食をとった陽介。ふと左手を見つめた。

（・・・夢・・・じゃないよな）

うつすら浮かび上がるゴッドフェザー。

(・・・くそ)

誰にも相談することの出来ない事・・・己が他とは違う異型の存在
ライディーンになった事。

「そういえば・・・ティアナの奴元気にしてるかな？」

と言つて端末を取ろうとすると

「・・・こんにちは」

一人の女性が背後から現れた。

「？誰ですか？」

「・・・はじめまして。フェイト・T・ハラオウンです」

女性はサングラスを外し自己紹介した。

「あんたは・・・ティアナの上司？何か用ですか？」

「ええ。ライディーン・レイヴンさん」

「!?!」

陽介は警戒した。何故目の前の女性が自分がライディーンである事
を知っているのか。

「く！」

思わず逃げ出してしまう陽介をフェイトは飛行魔法で追跡する。

「うわー!!」

飛ぶフェイトに抱き上げられ空中に浮かべられる陽介。

「おい！離せ！離せよ!!」

空中でシドロモドロになっている陽介にフェイトは・・・

「じゃあ離すよ」

「え？うわあああああああああ!!」

空中から真っ逆さまに落ちていくと・・・

「早く飛ぶって念じて!!急いで!!」

フェイトの言葉に陽介は念じた。

（飛べ・・・飛べ・・・）

地面に激突する寸前陽介の背中から鋼鉄の翼が生え滑空した。

「な！なんだこれ!？」

空を舞う陽介しかし・・・

「・・・嘘だろ」

地上に居る人間は陽介の姿を見ていない。

「まさか・・・皆には見えてないのか？」

「そつだよ」

「え？」

陽介の元に舞い降りるフェイト。

「ライディーンの状態になった君は普通の人には見ることはできない」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

フェイトを疑いの眼差しを向ける陽介。

「その様子だとなんで私が貴方の事が見えるかって知りたいみたいだね・・・着いてきて」

陽介はフェイトに案内されるまま地上に舞い降りフェイトの車に乗った。そしてそのままカフェに行き事情を聞くことになった。

「あんた・・・超魔について知ってるのか？」

「まあ詳細を知ってるわけじゃないから・・・ただライディーンが現れたことは知ってる」

「え？」

フェイトは微笑んで言った。

「何故か分からないけど・・・私にはあなた・・・ライディーンの事が見えてしまうのでした」

「・・・そんな」

「ライディーンの姿を見ることができるのは私だけじゃない・・・機動六課の一部のメンバーは見る事ができる」

「・・・・・・・・・・」

ティアナにバレたと思った。するとフェイトは一言言った。

「それじゃ・・・本題に入るけど・・・あなた・・・機動六課に来るつもりない？」

「へ？」

「あなたの力が必要な・・・超魔と戦うために・・・あなたの記憶を辿れば・・・もしかしたら・・・超魔の目的がわかるかもしれない」

「ちょっと待てよ！俺が聞いたことなんて超魔を倒せって事と翼を与えるくらいだぜ！」

「けど・・・お願いします」

陽介に頭を下げるフェイトしかし。

「嫌だね」

「え？」

そのままフェイトから去ってしまう陽介。

一見冷たい態度をとる陽介。だが戦う気がないわけじゃない。

（人に指図されて戦うなんて真っ平ごめんだ）

その時

「！！」

何かの気配を感じ取り陽介は何処かの公園に走った。

「・・・・・・・・」

公園の電柱の上に座っている超魔。

「ぐふふふふ」

まるで狩りの獲物を定めているように見える。

「又オオオオオオオアアアアアアア！！」

超魔が見ず知らずの人に襲いかかろうとしたその時。

「ぐ！」

超魔の攻撃を受け止める陽介。

「何あの人・・・勝手に吹っ飛んじやつたよ」

「見ちゃダメ」

と指差される陽介。

「おらこつちだ！」

そんな野次を無視し陽介は超魔を誘い出した。

「貴様・・・まさか」

超魔も陽介の正体に勘付いたのか。陽介を追いかける。

人気のない場所に誘い込んだその時。

「超者！降うつ臨！！」

陽介の左腕にゴッドフェザーが浮かび上がると神経が浮き上がった。

「うおおおおおおおおおおおおお！！」

覚醒の衝撃で衣服が八つ裂きになり光で覆われる。

「はあああああああああああああ！！！」

衝動が頂点に達すると陽介はライディーン・レイヴンに覚醒した。

「ライディーン・・・邪魔はさせん！！！」

「くっくっく！！！」

超魔の攻撃を受け止める陽介。そのまま地面に叩き付けると上昇した。

「レイヴン！インパルス！！！」

「ぬおおおおお！！！」

陽介の衝撃波に吹きとばされる超魔。すると身体中から触手を生やし陽介を絡め取った。

「ぐーっくっ」

「どうだ身動きが取れまい！！！」

「ぬおおおおお・・・」

無理矢理引き千切ろうとする陽介だがうまく力が入らない。

その時

「バルディッシュ！」

金色の閃光が触手を切り裂き陽介を解放した。

「ぐあ……」

「大丈夫？」

「あんたは」

陽介の目の前に現れるフェイト。そして超魔は再生を果たす。

「く！どうすれば」

「奴を倒すには強力なエネルギーを叩き込むしかない」

「強力なエネルギー？」

「ゴッドバードチェンジを！」

「え？」

「あなたが知らなくてもあなたの記憶が知ってるはず」

フェイトの言葉に陽介は記憶を探ると……イメージに現れる霊鳥の姿……

そして陽介は舞い上がった。

必死に前を隠す陽介その時。陽介の前に車が停まった。

「ちょっと！早くこれ着て！」

「うわ！」

車からフェイトが着替えを投げ渡した。そのままフェイトの車に乗り込む陽介。

「全く・・・こういう事があるからサポートするって言ったのに」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

何も言えなくなる陽介

「まっ変質者で逮捕されなくなかったらウチに着なさい」

「ぐぐぐ」

と中がフェイトに脅迫されながら陽介は機動六課に入ることになった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0984q/>

超者ライディーンStrikerS

2011年10月6日03時46分発行